

昔むかし、いつぴきのねこがいました。このねこは、おそろしくたくさん食べるので、ご主人は、ねこの首に石をくくりつけて川に放りこんでしまおうと思いました。そこで、最後に、一皿のおかゆと小さなつぼにあぶらを一杯、朝ご飯にやりました。

ねこが、おかゆとあぶらを食べてしまうと、ご主人が、

「もうご飯をすませたかい」とききました。ねこは、

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯だけだもの。あんたも食ってしまおうかな」といって、ご主人をつかまえて食べてしまいました。

それから、ねこは、牛小屋に行きました。牛小屋では、おかみさんがミルクをしぼっていました。

「あら、ねこちゃん。もうご飯をすませたの」と、おかみさんがききました。ねこは、

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯とご主人だけだもの。あんたも食ってしまおうかな」といって、おかみさんをつかまえて食べてしまいました。

ねこは、えさを食べている雌牛にいいました。

「こんにちは、えさを食ってる雌牛さん」

「あら、ねこちゃん。もうご飯をすませたの」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯とご主人とおかみさんだけだもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、雌牛をつかまえて食べてしまいました。

それから、ねこは、果物畑に行きました。すると、男の人が枯葉をはいていました。

「こんにちは、畑のそうじ屋さん」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛だけだもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、男の人をつかまえて食べてしまいました。

それから、ねこは、石垣の所へ行きました。そこにいたちがいました。

「こんにちは、石垣の上のいたち君」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋だけだもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、いたちをつかまえて食べてしまいました。

それから、しばらく行くと、はしばみのしげみにりすがありました。

「こんにちは、しげみのりす君」

「あら、ねこちゃん。もうご飯をすませたの」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちだけなもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、りすをつかまえて食べてしまいました。

また少し行くと、森のはじっこからあたりを見まわしているきつねに会いました。

「こんにちは、ぬけ目のないきつね君」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちとしげみのりすだけなもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、きつねをつかまえて食べてしまいました。

また少し行くと、うさぎに会いました。

「こんにちは、ぴよんぴよんうさぎ君」

「あら、ねこちゃん。もうご飯をすませたの」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねだけなもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、うさぎをつかまえて食べてしまいました。

また少し行くと、おかみに会いました。

「こんにちは、あらっばいおかみ君」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとぴよんぴよんうさぎだけなもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、おかみをつかまえて食べてしまいました。

それから、ねこは、森に入って行きました。そして、長いこと、長いこと、山をこえ、谷をわたって歩いて行くと、こぐまに会いました。

「こんにちは、茶色の服のこぐま君」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとぴよんぴよんうさぎとあらっばいおかみだけなもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、こぐまをつかまえて食べてしまいました

もう少し歩いて行くと、母さんぐまが、子どもを食べられて怒っているのに会いました。

「こんにちは、怒りっぽい母さんぐま」

「あら、ねこちゃん。もうご飯をすませたの」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとびよんぴよんうさぎとあらっぽいおかみ、茶色の服のこぐまだけだもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、母さんぐまをつかまえて食べてしまいました。

もう少し歩いて行くと、父さんぐまに会いました

「こんにちは、りちぎな父さんぐま」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとびよんぴよんうさぎとあらっぽいおかみ、茶色の服のこぐまと怒りっぽい母さんぐまだけだもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、父さんぐまをつかまえて食べてしまいました。

ねこは、長いこと、長いこと歩いて、町までやって来ました。すると、結婚式の行列に会いました。

「こんにちは、結婚式の行列」

「あら、ねこちゃん。もうご飯をすませたの」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとびよんぴよんうさぎとあらっぽいおかみ、茶色の服のこぐまと怒りっぽい母さんぐまとりちぎな父さんぐまだけだもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、行列にかけよって、お婿さんもお嫁さんもお祝いの人たちも馬も何もかも食べてしまいました。

しばらく歩いて行くと、お葬式の行列に会いました。

「こんにちは、お葬式の行列」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいたちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとびよんぴよんうさぎとあらっぽいおかみ、茶色の服のこぐまと怒りっぽい母さんぐまとりちぎな父さんぐま、結婚式の行列だけだもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、棺桶も死人も悲しんでいる人たちも何もかも食べてしまいました。

それから、ねこは、空へ上って行きました。すると、雲の中でお月さまに会いました。

「こんにちは、雲の中のお月さま」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとびよんぴよんうさぎとあらっぽいおかみ、茶色の服のこぐまと怒りっぽい母さんぐまとりちぎな父さんぐま、結婚式の行列とお葬式の行列だけなもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、お月さまにかけよって、三日月から満月まで、すっかり食べてしまいました。

ねこは、長いこと、長いこと歩いて、お日さまに会いました。

「こんにちは、空のお日さま」

「あら、ねこちゃん。もうご飯をすませたの」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとびよんぴよんうさぎとあらっぽいおかみ、茶色の服のこぐまと怒りっぽい母さんぐまとりちぎな父さんぐま、結婚式の行列とお葬式の行列と雲の中のお月さまだけなもの。あんたも食ってしまおうかな」

ねこは、お日さまを食べてしまいました。
それから、ねこは、長いこと、長いこと歩いて、橋の所まで来ました。橋の上で、やぎに会いました。

「こんにちは、橋の上のやぎ君」

「やあ、ねこちゃん。もうご飯をすませたかい」

「ああ、ほんのちよっぴりね。まだお腹がへってるよ。おかゆ一皿と小さなつぼにあぶらを一杯、ご主人とおかみさんとえさを食ってる雌牛、畑のそうじ屋と石垣の上のいちとしげみのりす、ぬけ目のないきつねとびよんぴよんうさぎとあらっぽいおかみ、茶色の服のこぐまと怒りっぽい母さんぐまとりちぎな父さんぐま、結婚式の行列とお葬式の行列と雲の中のお月さま、空のお日さまだけなもの。あんたも食ってしまおうかな」

やぎは、
「それにはまず勝負をつけなくっちゃ」といって、ねこ目がけて、つのでつきかかりました。ねこは、橋からころげ落ちて、お腹がはじめてしまいました。

すると、ねこのお腹から、みんな出て来ました。空のお日さまも、雲の中のお月さまも、お葬式の行列も、結婚式の行列も、りちぎな父さんぐまも、怒りっぽい母さんぐまも、茶色の服のこぐまも、あらっぽいおかみも、ぴよんぴよんうさぎも、ぬけ目のないきつねも、しげみのりすも、石垣の上のいちたちも、畑のそうじ屋も、えさを食ってる雌牛も、おかみさんも、ご主人も、みんな出て来て帰って行きましたとき。

原話：『世界の民話3 北欧』 榎田照男訳／ぎょうせい

再話：村上郁

